

保育のねらい

- ① 気持ちよく安心して過ごす。
- ② さまざまなサインや感情（快・不快、喜び、怒りなど）を表現する。
- ③ 保護者または保育者との十分なかわりで安定して遊ぶ。
- ④ 健康的な生活リズムで過ごす。
- ⑤ 探索活動を十分に作る。
- ⑥ 身体運動を活発に行う。

身体運動的発達

- ・首がすわり、腹ばいで頭を上げる。
- ・動くものを目で追う。
- ・手足を盛んに動かす。
- ・指を見つめたり、口に持っていったりする。
- ・手に触れたものをつかもうとしたり、手を伸ばしたりする。

情緒的発達

- ・機嫌がよいときは喃語^{なんご}を発する。
- ・身近な人の顔に反応し、表情を変えたり、手足を動かしたりする。
- ・にっこり笑う。
- ・不快でも、なだめられると安心する。

保護者としての留意点

- ・子どもの出すサイン（快・不快に始まる）をタイミングよくキャッチし、「快」は受け止めて一緒に声や表情で喜び、「不快」（空腹、体調不良、排せつなど）は取り除き、「大丈夫だよ」と安心させるようにする。
- ・なだめたり、安心できる状況にするには、スキンシップが一番である。子どもが快いように、抱っこや手足の曲げ伸ばしや皮膚のマッサージをする。
- ・身近な大人が、子どもの感情表現や行動に、わかりやすくはっきりした言葉で意味付けを行うようにする。
- ・清潔で静かな環境で、安心してゆっくり睡眠がとれるようにする。また、静かな音楽を流したり、背中をさすったり軽くたたいたりするなど、眠りに入りやすい状況を作る。
- ・十分な運動や探索活動ができるように、適温で余裕のあるスペースを用意する。
- ・清潔には十分注意をし、感染症などに気をつける。また、体調の悪いときには人ごみには出ないなど、配慮する。
- ・元気な様子でも急に発熱したり、病気のときでも状態が急に変わることがあるので、心配なときはかかりつけの小児科医の診断を受けるようにする。
- ・小さいものや口に入れやすいものは手の届くところには置かない。危険な場所にはフェンスやサークルを使用するなど、誤飲や転落などの事故には十分気をつけて、常に環境を点検する。
- ・気候がよく、体調も良好なときは戸外に出て、できるだけ外気に触れるようにする。

その他

- ・人の顔やカラフルなモバイル、柔らかで感触のよい人形やボール
- ・軽いガラガラや歯固めなど
- ・振ると軽い音の出る玩具

保育のねらい

★ 4カ月までの①~⑥と同じ。

身体運動的発達

- ・寝返りをする。
- ・後ろ向きに進む。
- ・腹ばいで移動する。
- ・一人で座り、姿勢が安定してくる。
- ・目の前のものに手を伸ばし、つかむ。
- ・つかんだものを口に入れ、なめて確かめる。
- ・両手の動作が見られるようになる。

情緒的発達

- ・見知らぬ人をじっと見つめ、不安がることもある。
- ・笑う、泣く、追うなどの愛着行動が盛んになる。
- ・大人言葉を理解し始める。

保護者としての留意点

★ 4カ月までと同じ。

その他

- ・触れると音が出る、飛び出すなど、変化する玩具
- ・つまむ、振るなど、手先を使う玩具
- ・はいはいが十分できる斜面やボールなど

※「その他」は、以下の内容について記しています。

- ・0~2歳児まで…その年齢に特に必要だと思われる玩具などの環境
- ・3歳児以上…月ごとの行事や特記事項

(このスペースは、それぞれの園の実態や必要事項などを書き込むメモとしてお使いください)

保育のねらい

- ★ 8カ月までの①~⑥に加え、
- ⑦ 十分に遊ぶ中で、全身の運動機能（はう、立つ、歩くなど）や指先の機能（つまむ、はがす、引っ張るなど）、感覚の機能が伸びる。
- ⑧ ものの名前など言語（言葉）に興味をもち、発語しようとする。

身体運動的発達

- ・四つんばい、高ばいやつかまり立ちをする。
- ・座って両手の協応動作（両手を打ち合わせるなど）や細かい動作（小さなものをつまむなど）もできるようになる。

情緒的発達

- ・指差しをする。指差しされた方を見る。
- ・自分の生活の流れがわかるようになる。
- ・大人の指示やだめと言われたことなどを言語（言葉）で理解する。
- ・できたこと、ほめられることを喜ぶ。
- ・要求や感情を親しい大人に伝えようとさまざまに表現する。
- ・片言や一語文、長い喃語^{なんご}などを話す。

保護者としての留意点

- ・つかまり立ちや伝い歩きはあえて促さず、十分にはうこと。特に歩行前の高ばいを十分にさせて、床（地面）から立ち上がるようにする。
- ・外気に触れたり、砂や水、その他自然物で遊ぶなど、戸外遊びを十分に経験できるようにする。
- ・指先の機能が飛躍的に伸びるときなので、手先・指先を使う遊びが十分にできるようにする。
- ・歌や手遊びなどにも関心が出てくるので、模倣を取り入れながら、楽しく体全体を動かすことができるようにする（大人と一緒に楽しむこと）。
- ・「ごっこ」やつもりの遊びは大人が十分に相手をしながら、その場に応じた言葉や行動を知らせる。遊びが広がるように身近な材料などを準備しておく。
- ・食べ物の好き嫌い、遊び食べなども出てくるが、意欲的に自分から食べることを第一の目的にして、無理強いをせず、時間で切り上げるようにする。
- ・健康的な生活リズム（早寝・早起き、十分な運動や睡眠など）を作り、積極的な健康作りを心がける。

その他

- ・子どもがさまざまに働きかけることで変化する玩具（簡単なパズル、型入れ、布引やひも通しなど）
- ・上り下りできる斜面や階段など、身近なものや生活に即した絵本

保育のねらい

- ★ 12カ月までの①~⑧と同じ。

身体運動的発達

- ・歩くことが安定し、小走り、上る、投げるなどの動作もできるようになる。
- ・手の細かい動作もいっそう複雑にできるようになる。
- ・「一人立ち」「一人歩き」ができるようになる。

情緒的発達

- ・自分の要求や予想と大人が違う対応をすると、激しく抵抗する。
- ・大人がすることに大変興味をもち、じっと観察し、まねしようとしたり、自分の行動に大人がどう対応するかを試したりする。
- ・二語文も出てくる。
- ・要求を言葉で表そうと試みる。
- ・「ごっこ」やつもり、見立てができるようになる。
- ・大人とのやりとりを喜ぶ。
- ・集団保育の場では周囲の子どもに関心が出てきて、かかわろうとする。

保護者としての留意点

- ★ 12カ月までと同じ。

その他

- ・引く、押す、渡るなどができる運動的玩具（ひも付きワゴンなど）
- ・人形やままごと道具
- ・砂や土、水などの自然物、紙や布、粘土、絵の具やクレヨンなど
- ・簡単なストーリーや言葉の繰り返しを楽しめる絵本

保育のねらい

- ・保護者や保育者との安定した関係の下で、生活に必要な基本的な活動を自分からしようとする（食事、衣服の着脱など）。
- ・大人と一緒に遊びながら、遊びの楽しさを知る。
- ・スプーンを使って一人で食べようとする。
- ・オムツがぬれていないとき、便器に座り、便器での排尿に慣れる。
- ・衣類の着脱に興味をもつ。
- ・生活や遊びの中で、簡単な言葉のやりとりを楽しむ。
- ・戸外で遊ぶことを楽しみ、体を十分に動かす。
- ・指先を使う遊びや探索活動をする。
- ・絵本に親しみ、読んでもらうことを喜ぶ。
- ・小動物（金魚、かめ、小鳥、猫、犬など）に興味をもって見る。
- ・自然物（木の葉、木の実、小石、砂など）に触れたり、集めたりする。

身体運動的発達

- ・歩行が完成し、手足の運動が活発になり、複雑な協応動作ができるようになる。
- ・走ったり、歩行の方向転換や速さの調節ができるようになる。
- ・しゃがんだまま遊ぶ。
- ・両足はそろわないが、15cmぐらいの所から飛び降りることができる。
- ・粘土をちぎる。
- ・積み木を2～3個積む。
- ・水道の蛇口をひねる。
- ・リズムカルな曲に合わせて手をたたいたり、全身を動かしたりする。

情緒的発達

- ・ものの取りあいなど他児とのトラブルも多くなるが、大人の仲立ちによって親しく遊ぶことができる。
- ・駄々をこねるが、場合によっては気分転換ができる。
- ・見立てやつもりの遊びが盛んになってくる。
- ・周囲の人の行動に興味を示し、盛んに模倣する。
- ・自分と他者、自分のものと他人のものの区別がつくようになる。
- ・自分のしたいことを通そうとする。
- ・機嫌のよいとき、悪いときなどに感情をはっきり表す。
- ・二語文の出現から語いが広がる。
- ・母親への依存やしがみつきが強くなり、姿を探したりする。
- ・好きなこと、嫌いなことがはっきりしてくる。

保護者としての留意点

- ・大人を仲立ちとし、子ども同士の関係が楽しく、また親しいものになるように援助する。
- ・子どもの感情や思いを的確に判断し、言葉でわかりやすく代弁するなど、それぞれの要求が満たされるように配慮する。
- ・子どもと会話するときはゆっくりと子どもの気持ちに合わせ、子どもの言いたいことを補い、確認しながら子どもの気持ちを受け止める。
- ・歩行が安定し、探索活動が活発になるので危険のないように配慮する（室内など、手の届くところに危険物を置かない）。
- ・排せつは、個人差があるので排尿間隔をつかみ無理なく進め、うまく排尿できたときはほめる。
- ・子どもの発見や驚きを見逃さずに受け止め、共感して、好奇心や興味を満たす。
- ・「ふり」「ごっこ」「再現」などの動きを大切に、大人が意識してイメージを支えながら遊びが楽しめるようにする。またそのための環境を設定する。
- ・模倣遊び、見立て遊びを大人と一緒にしながら、言葉のやりとりや遊びの楽しさを知らせる。そうした遊びからイメージが豊かになり、じっくりとものに取り組む力（集中力）が育つ。またこのイメージが土台になり、「何かを何かに見立てる」ことが、豊かな言葉の発達につながり、一人遊びもできるようになる。
- ・生活習慣は毎日の繰り返しのなかから身につけていくものなので、生活リズムを整える。また失敗も多いので余裕をもって対応し、自分からやろうとする気持ちを育てる。
- ・玩具は整理箱を用意するなど、片付けやすいような環境を工夫する。

その他

- ・低いすべり台、はって抜けるトンネル、斜面や階段、押したり引いたりする玩具
- ・パズル、型はめ、ひも通し、積み木、ブロック、クレヨン、マジック、大きな紙、粘土、水、砂など
- ・絵本、人形、ままごと道具
- ・カセットやCDなどの音楽や簡単なリズム楽器
- ・手遊び
- ・自然物（木の葉、木の実、小石など）
- ・戸外環境（公園、広場など）

保育のねらい

- ・保護者や保育者との安定した関係の下で、生活に必要な基本的な活動を自分からしようとする(食事、着脱、排せつ、清潔など)。
- ・周囲の身近な環境(大人や友達、小動物や植物など)に自分からかかわり、興味や関心をもつ。
- ・生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しみ、要求を言葉で表現する。
- ・模倣や「ごっこ」遊びを自分なりに展開させ、十分に楽しむ。
- ・戸外で遊ぶことを楽しみ、体を十分動かす。水、土、砂などに触れて遊ぶ。
- ・指先を使う玩具で集中して遊ぶ(動かす、並べるなど)。

身体運動的発達

- ・基礎的な運動機能が育つ(走っているときにスピードの調整が可能、握る、探す、ねじる、ちぎる、つまむ、曲げるなど)。
- ・階段を足踏み式で、上り下りできるようになる。
- ・ボールを下手投げで投げられるようになる。
- ・粘土を細長く伸ばしたりする。
- ・公園の遊具などを使おうとする。
- ・道具の操作に慣れる(ねじを回す、ふたの開閉、ハサミを使う)。
- ・腕を振りながら走る。
- ・腕をコントロールして円を描くことができる。

情緒的発達

- ・行動範囲が広がり、他児とのかかわりを求めるようになる。
- ・自分を取り巻くものには全て名前がわかることになり、「これ、なに?」と聞く。
- ・自分の要求を言葉で話し、生活に必要な言葉を理解して使えるようになる。
- ・自我がはっきりし、遊びの中でトラブルが生じる。並行遊びが多い。
- ・好奇心旺盛で、何にでも興味をもって試そうとするが、うまくいかずにかんしゃくを起こしたりする。
- ・見立て、つもり遊びが多くなり、自分なりに楽しむ姿が多く見られる。
- ・自己評価(よい、悪い、できる、できないなど)をするようになり、他者からの評価に反応する。
- ・大人からほめられると手伝いなどを喜んでする。

保護者としての留意点

- ・大人を仲立ちとし、子ども同士の関係が楽しく、また親しいものになるように援助する。
- ・子どもの感情や思いを判断し、言葉でわかりやすく代弁するなど、それぞれの要求が満たされるように配慮する。子どもと会話をするときはゆっくりと子どもの気持ちを思い、言葉を待つ。意味や言い直しなどを補いながら、話すようにする。
- ・子どもの思いや考えと結果としての行為が結びつくように言葉や動きで知らせ、子どもが自らの判断で行動できるように援助する。
- ・「ふり」「ごっこ」「再現」などの動きを大切に、大人がともに遊びながら、子どものイメージで楽しめるようにする。展開にあたっては、子どもとの間で楽しさやイメージを共有できるようにする。
- ・同年齢や少し大きい子の生活や遊びにも接し、自分なりのかかわり方で楽しめるようにする。
- ・戸外遊びでも、十分に体を動かして遊べるようにする。
- ・玩具の片付け、手洗い、食事など生活に関することは、一緒にして見せ、模倣しながら繰り返し行うことで身につくようにする。
- ・十分な睡眠と活発な活動を保障する。しっかり目覚め、豊かに活動するためには、睡眠時間を保障することが大切である。
- ・活動面においては失敗も多い時期なので、ゆとりをもって自分のペースでできるようにする。
- ・言語習得も活動とのかかわりが大きいので、多様な活動が経験できるようにする。(活発に活動する子は言語習得も早い)。

その他

- ・低いすべり台、はって抜けるトンネル、斜面や階段、押したり引いたりする玩具
- ・パズル、型はめ、ひも通し、積み木、ブロック、クレヨン、マジック、ハサミ、大きな紙、粘土、水、砂、三輪車など
- ・絵本は、興味に応じて出合えるようにする。また、さまざまな世界の様子や文化・自然については、子どもがイメージをもちやすく、調子よく口ずさみやすい文章のものがよい。
- ・人形やままごと道具は、役割が表現しやすい設定(洋服、小物など)も工夫する。
- ・自然物(だんごむし、あり、かたつむり、ちょう、とんぼ、草花、木の実、小石など)
- ・気に入る玩具に出合えるようにする。
(楽器、鈴、オルゴール、電車、電話、ドレス、乗り物、怪獣など)

保育のねらい

- ・保護者や保育者との安定した関係の下で、生活に必要な基本的な活動を自分からやろうとし、できるようになったうれしさを感じる（食事、排せつ、睡眠、着脱、清潔など）。
- ・周囲の身近な環境（大人や友達、小動物や植物など）に自分からかかわり、興味や関心をもつ。
- ・生活や遊びの中で言葉のやりとりを楽しみ、要求を言葉で表現するようになる。
- ・模倣や「ごっこ」を自分なりに展開し、楽しめるようになる。
- ・戸外で体を十分動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・絵本や物語を十分楽しみ、イメージをふくらませる。
- ・自然とのかかわり、触れ合いなど（なぜ？どうしたの？）の探索を楽しむ。

身体運動的発達

- ・基礎的な運動機能が育つ（走っているときにスピードの調整が可能、握る、探す、ねじる、ちぎる、つまむ、曲げるなど）。
- ・50cm位の高さの所から飛び降りる。
- ・いろいろなものを紙や布で包む。
- ・公園の遊具などを使いこなす。
- ・道具の操作に慣れる（ねじを回す、ふたの開閉、ハサミを使う）。
- ・腕を振りながら走る。
- ・楽器をたたく、ならす。
- ・歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。

情緒的発達

- ・他者と自分の感情に気づく。他者とかわろうとするときは多少の自己調整（感情・欲求の抑制など）をする。
- ・言葉の中にもファンタジーの世界が広がり、友達と「ごっこ」を展開させる。
- ・「なぜ？」「どうして？」といろいろなことに関心を持ち、知りたがったり考えたりするようになる。
- ・自分の要求を言葉で話し、生活に必要な言葉を理解し、使えるようになる。
- ・他児とのかかわりが親密になり、大人の助言があると、譲ったり順番を守ったりできるようになる。

保護者としての留意点

- ・大人を仲立ちとし、子ども同士の関係が楽しく、また親しいものになるように援助する。子どもの感情や思いを理解し、言葉でわかりやすく代弁するなど、それぞれの要求が満たされるように配慮する。
- ・子どもと会話をするときにはゆっくりと子どもの気持ちに添うようにし、意味や言い回しなどを補いながら、次第に相手にわかる話し方を伝える。
- ・子どもの思いや考えと、結果としての行為が結びつくように言葉や動きで知らせ、子どもが自らの判断で行動できるように援助する。
- ・「ふり」「ごっこ」「再現」などの活動を大切に、大人もともに楽しみながら、イメージを支えるようにし、遊びの場の設定も子どもとともにする。展開にあたっては、子どもと楽しさやイメージが共有できるようにする。
- ・同年齢や、少し大きい子の生活や遊びを身近にし、さまざまなかかわりの中で、自分の遊びが広がるようにする。
- ・戸外で体を十分動かして遊べるようにする。
- ・玩具の片付け、手洗い、食事に関する事などは、子ども自身が主体的に行うように援助する。特に玩具は、整理箱を用意するなど、片付けやすいようにする。
- ・十分な睡眠と活発な活動を保障する。しっかり目覚め、豊かに活動するためには、睡眠時間を保障することが大切である。
- ・活動面においては失敗も多い時期なので、ゆとりをもって自分のペースでできるようにする。
- ・言語習得も活動とのかかわりが大きいので、多様な活動が経験できるようにする。（活発に活動する子は言語習得も早い）。

その他

- ・パズル、型はめ、ひも通し、ボタンはめ、積み木、ブロック、クレヨン、マジック、ハサミ、大きな紙、粘土、水、砂など、変化する素材、三輪車、ミニカー
- ・絵本は、興味に応じて出合えるようにする。また、さまざまな世界の様子や文化・自然については、子どもがイメージをもちやすく、調子よく口ずさみやすい文章のものがよい。
- ・人形やままごと道具は、役割が表現しやすい設定（洋服、小物など）も工夫する。
- ・固定遊具（すべり台、ブランコ、ジャングルジム、鉄棒など）
- ・自然物（だんごむし、あり、かたつむり、とんぼ、草花、木の実、小石など）
- ・親子で触れ合える遊び（体操、手遊び、歌など）